

# 学習指導要領 新旧対照表

# 5・6年

## 学習指導要領改訂のポイント

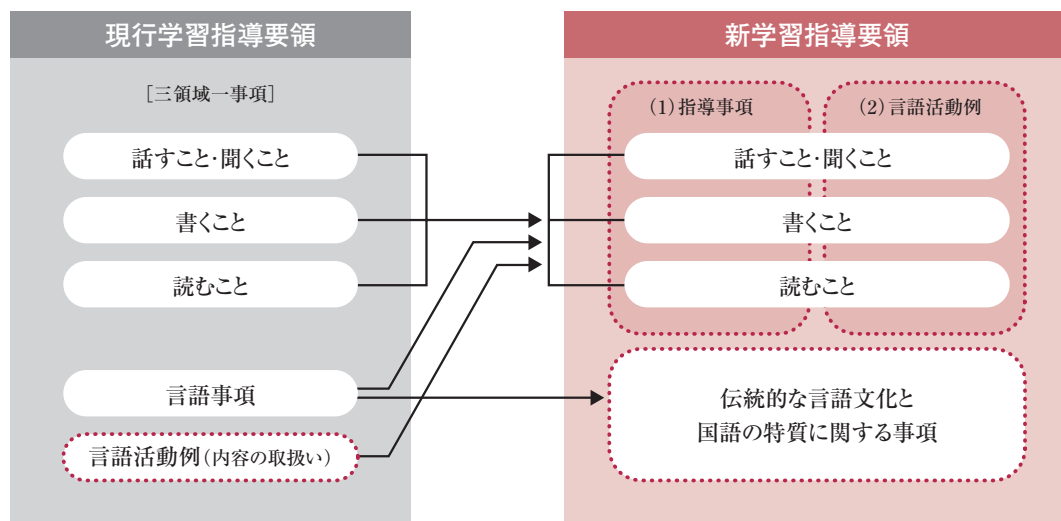
小学校「国語科」改訂のポイントについて、文部科学省は次のように説明しています。

- ・日常生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる基礎的な国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容を改善。

上記の考え方のもと、内容の構成については、次のように変更になりました。

- ①「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域構成は継続しながら、言語活動のプロセスをより明確にして指導事項を配列した。(注)
- ②各領域の能力が確実に身に付くよう、記録、報告、解説などの言語活動例を「内容の取扱い」から「領域の内容」に移行し、より具体化した。
- ③現行の〔言語事項〕を伝統的な言語文化、言葉の特徴やきまり、文字、書写から構成される〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に改めた。

## 「小中学校国語科・学習指導要領改訂イメージ」(文部科学省)



三領域一事項は継続するが、内容を系統的に整理

注：例えば、「書くこと」の指導内容は、「話題・題材、取材／構成／記述／推敲／交流」という順に並んでいる。他の領域も同様に、言語活動のプロセスを指導事項の並べ方に反映・整理したということ。

## 本表について

内容構成が変更されたため、新旧の学習指導要領を単に並べるだけでは対照しにくい面があります。そこで、本表では、新学習指導要領を中央に位置づけて軸とし、新規・変更部分を赤字で示しました。そして左欄に、それに対応する現行学習指導要領の項目を、順序を入れ替えるなどして置き、対応・変更、新規・削除が分かるようにしました。また、新規・変更部分の簡単な解説と現行教科書での扱いなどを「備考」欄に示しました。

なお、書写の指導内容については別途資料を作成したため省き、また「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」についても省略しました。

# 目標

## 現行

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

## 新

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

## 備考

●変更なし。

# 第5学年及び第6学年の目標

## 現行

(1) 目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。

(2) 目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。

(3) 目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

## 新

(1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、**的確に話す能力**、相手の意図をつかみながら**聞く能力**、**計画的に話し合う能力**を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

(2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の**構成の効果**を考えて文章に**書く能力**を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。

(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら**読む能力**を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

## 備考

●目標に、「能力」という表現が用いられた。

(1)は「話す能力」「聞く能力」「話し合う能力」と態度。

(2)は「書く能力」と態度。

(3)は「読む能力」と態度。

(2)「構成の効果」新規。

# A 話すこと・聞くこと

## (1) 指導事項

### 現行

ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。

ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

### 新

ア 考えたことや伝えたいことなどから**話題を決め**、**収集した知識や情報**を関係付けること。

イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の**構成**を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

ウ **共通語と方言との違いを理解し**、また、**必要に応じて共通語で話すこと**。

エ 話し手の意図をとらえながら聞き、**自分の意見と比べる**などして**考えをまとめること**。

オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

### 備考

●アは新規。話題・取材に関する内容を独立させたもの。話すことと話し合うことの両方にかかわる。

●イウは話すことに関する事項。「組立て」から「構成」に変更。

●ウは現行の「言語事項」から移動。

## (2) 言語活動例

・自分の考えを資料を提示しながらスピーチをすること。  
・目的意識をもって友達の考えを聞くこと。  
・調べた事やまとめた事を話し合うこと。

ア 資料を提示しながら**説明や報告**をしたり、それらを聞いて**助言や提案**をしたりすること。

イ 調べたことやまとめたことについて、**討論**などをする

ウ 事物や人物を**推薦**したり、それを聞いたりすること。

●現行「内容の取扱い」にあった「言語活動例」がより具体的になり、内容に移行。

●「話す」と「聞く」が双方向の活動として示された。

●イは新規だが、現行教科書でも扱っている。

●ウは新規だが、現行教科書でも図書の推薦をする活動は扱っている。

## B 書くこと

### (1) 指導事項

現行	新	備考
ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。	ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。	●アは現行アとイが統合され、話題・題材、取材に関する事項となった。
イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。		●エは新規。「引用」や「図表やグラフを用いること」が示された。ただし、現行教科書中にも例示はある。
ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えること。	イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。	●カは新規。交流・評価に関する事項。ただし、現行教科書でも活動としては扱っている。
エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。	ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。	
	エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。	
オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。	オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。	
	カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。	

### (2) 言語活動例

・ 礼状や依頼状などの手紙を書くこと。 ・ 自分の課題について調べてまとめた文章に表すこと。 ・ 経験した事をまとめた記録や報告にすること。	ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくらせたり、物語や随筆などを書いたりすること。	●現行「内容の取扱い」にあった「言語活動例」がより具体的になり、内容に移行。
	イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。	●アは新規だが、詩や物語の創作は現行教科書でも扱っている。
	ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。	●イは現行教科書でも扱っているが、「意見を記述する」「活動を報告する」と具体化された。「編集」も新しく示された。
		●ウは新規。

## C 読むこと

### (1) 指導事項

現行	新	備考
	ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読すること。	●アは新規だが、これまでも扱われてきた内容。
オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。	イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。	●イは効果的な読み方が具体的に示された。
イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。	ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読みすること。	●エは、読んだうえで「自分の考えをまとめる」ことが示された。
エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと。		●オは新規だが、現行教科書でも扱っている。交流に関する事項。
ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながらか読むこと。	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。	
	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。	

ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。

カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

●カは読書に関する事項。

## (2) 言語活動例

- ・読書発表会を行うこと。
- ・自分の課題を解決するために図鑑や事典などを活用して必要な情報を読むこと。

- ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。
- イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。
- ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。
- エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。

●現行「内容の取扱い」にあった「言語活動例」がより具体的になり、内容に移行。  
●アとエは新規だが、現行教科書でも扱っている。  
●イは、「図鑑」「事典」から「意見を述べた文章」「解説の文章」に変更。「図鑑」「事典」は中学年に下りた。  
●ウは新規。

## ※現行の言語事項 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### 現行

エ 文語調の文章に関する事項  
(ア) 易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しむこと。

イ 表記に関する事項  
(ア) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。

ウ 語句に関する事項  
(イ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。

(エ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。

オ 文及び文章の構成に関する事項  
(ア) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

カ 言葉遣いに関する事項  
(ア) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

ア 文字に関する事項  
(ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。

(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

### 新

ア 伝統的な言語文化に関する事項  
(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。

(イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項  
(ア) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。

(イ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。

(ウ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。

(エ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。

(オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。

(カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。

(キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

(ク) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

(ケ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

ウ 文字に関する事項  
(ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

### 備考

●ア(ア)(イ)は新規。伝統文化に関する指導事項。現行エの文語調の文章に関する事項がより具体化されたもの。現行の教科書では文語詩と短歌・俳句、狂言を扱っている。  
●イの(ア)(イ)(オ)(ケ)は新規。(ア)(イ)は言葉の働きや特徴に関する事項。言葉が果たす役割に気づかせるもの。(ケ)は効果的な表現について気づかせるもの。  
●現行ウ(ア)「語句に関する類別の理解を深めること。」、ウ(ウ)「表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けること。」は削除された。  
●現行カ(イ)「共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。」は「話すこと・聞くこと」へ移動。

●今まで以上に、習った漢字を日常的に使うことが強調された。